



感染症患者発生情報（週報）

埼玉県内情報 2025 年 第 35 週（8 月 25 日～8 月 31 日）

一類及び二類（結核を除く）感染症	報告なし		
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	5 人	類型 患者 4 人、無症状病原体保有者 1 人 血清型 O157 2 人、O111 2 人、O124 1 人
四類感染症	E 型肝炎	5 人	推定感染地域 国内 3 人、不明 2 人
	レジオネラ症	2 人	病型 肺炎型 1 人、ポンティアック熱型 1 人
五類感染症	アメーバ赤痢	2 人	病型 腸管アメーバ症 1 人、 腸管外アメーバ症 1 人
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3 人	菌種 <i>Klebsiella</i> sp. 2 人、 <i>Enterobacter</i> sp. 1 人
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 人	病型 孤発性
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2 人	血清群 G 群 2 人
	侵襲性肺炎球菌感染症	1 人	
	梅毒	10 人	病型 早期顕症Ⅰ期 3 人、早期顕症Ⅱ期 4 人、 無症状病原体保有者 3 人
	百日咳	152 人	
	年齢階級	0 歳 2 人、2 歳 1 人、3 歳 1 人、4 歳 1 人、 5 歳 3 人、6 歳 8 人、7 歳 6 人、8 歳 6 人、9 歳 10 人、 10 歳代 75 人、20 歳代 8 人、30 歳代 4 人、40 歳代 10 人、 50 歳代 7 人、60 歳代 5 人、70 歳代 4 人、80 歳代 1 人	

〈百日咳の患者情報〉

第 35 週に届出があった百日咳の患者数（第 34 週以前に診断された患者を含む）は 152 人であった（前週 187 人）。

第 35 週に診断された患者数は 143 人で、この内訳を年齢階級別にみると、10～14 歳は 53 人（全体の約 37%）と最も多く、次いで 5～9 歳の 29 人（約 20%）の順であった（図 1）。

（参考）埼玉県感染症対策課 最新の感染症情報（URL：https://www.pref.saitama.lg.jp/a0710/news/widespread-infectious_disease.html）

〈定点把握疾患の患者情報〉

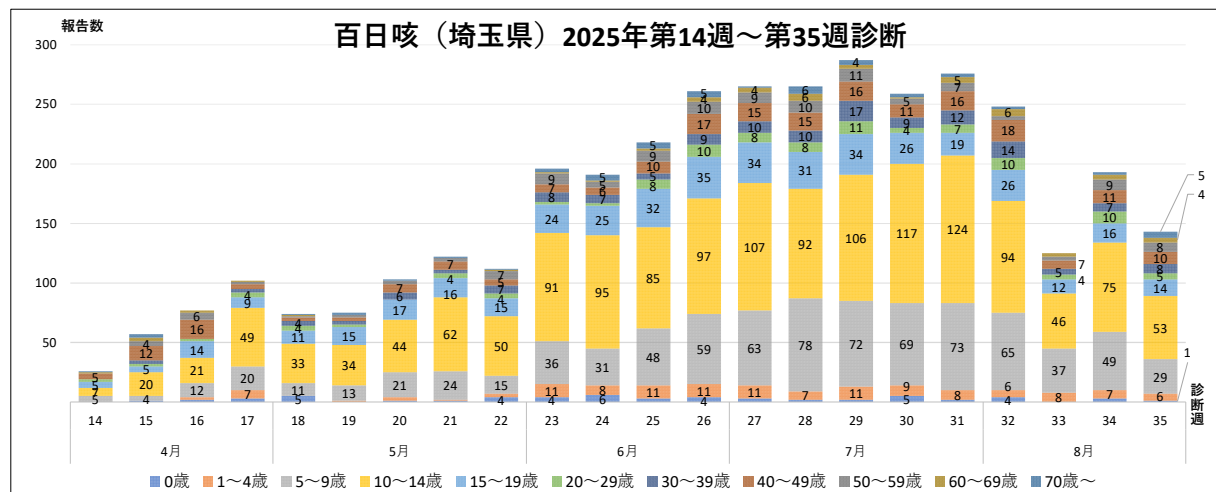
新型コロナウイルス感染症（11.52→10.19→9.40：図 2）の定点当たり報告数は、2 週連続でわずかに減少した。基幹定点における**入院患者**の報告は 41 人（前週 51 人）であり、年齢階級別では 70 歳以上が全体の約 73%であった。**RS ウイルス感染症**（0.86→1.34：図 3）の定点当たり報告数は前週と比較して増加した。保健所管内別では、幸手（3.60→6.60）保健所管内で大きく増加した。年齢階級別では、1 歳以下が全体の約 66%であった。**急性呼吸器感染症**（64.93*→66.47：図 4）の定点当たり報告数は、前週と比較して同水準であった。眼科定点報告疾患では、**流行性角結膜炎** 49 人の報告があった。基幹定点報告疾患では、**無菌性髄膜炎** 1 人、**マイコプラズマ肺炎** 18 人（前週 11 人）の報告があった。

* 遅れ報告・修正報告を反映した値を掲載。

全国の感染症発生動向に関する情報は、国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト（URL：<https://id-info.jhs.go.jp/>）で御覧になれます。

<注目すべき疾患（百日咳）>

図1 百日咳の診断週別報告数の推移



<今週の注目される定点把握対象疾患の推移>

図2 新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数の推移

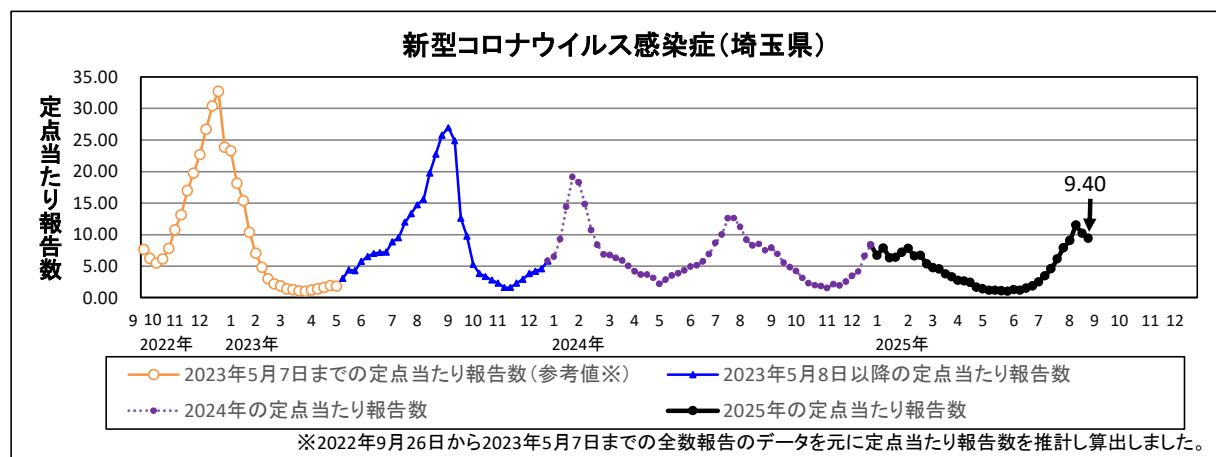


図3 RSウイルス感染症の定点当たり報告数の推移

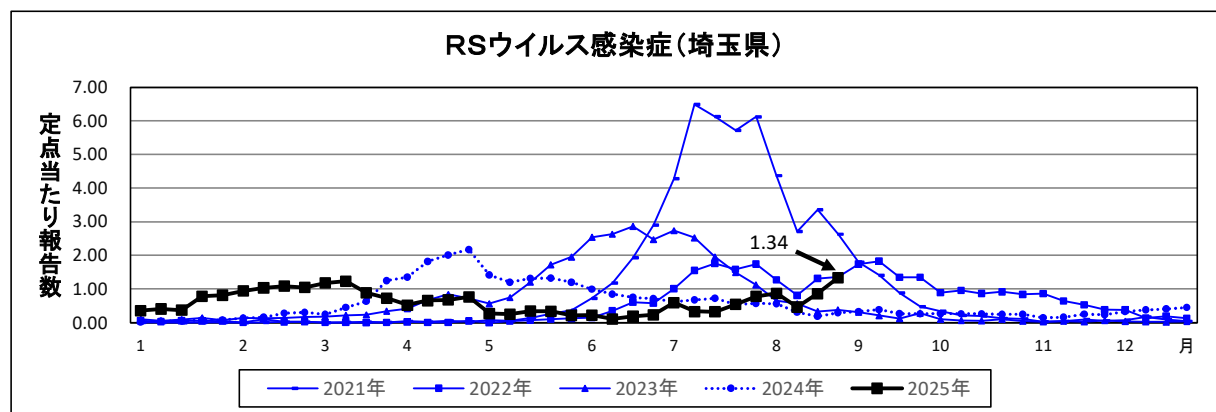
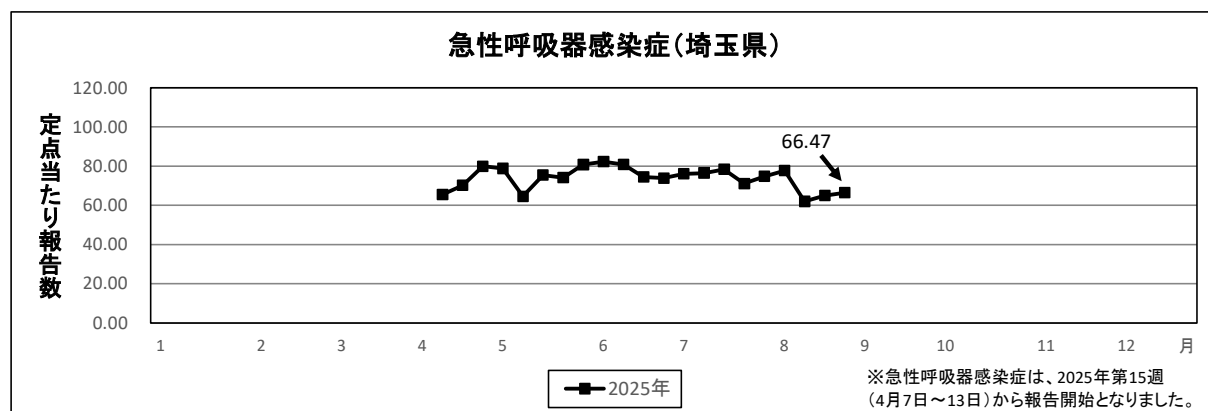


図4 急性呼吸器感染症の定点当たり報告数の推移



感染症発生状況(全数把握対象疾患)
(第35週)

(2025年9月2日 15:30集計)

	今週 届出	累 計		今週 届出	累 計
一類感染症					
エボラ出血熱			ペスト		
クリミア・コンゴ出血熱			マールブルグ病		
痘そう			ラッサ熱		
南米出血熱					
二類感染症					
急性灰白髄炎			中東呼吸器症候群(MERS)		
結核 * 1	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)		
ジフテリア			鳥インフルエンザ(H7N9)		
重症急性呼吸器症候群(SARS)					
三類感染症					
コレラ			腸チフス		2
細菌性赤痢		4	パラチフス		
腸管出血性大腸菌感染症	5	106			
四類感染症					
E型肝炎	5	27	東部ウマ脳炎		
ウエストナイル熱			鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)		
A型肝炎		4	ニパウイルス感染症		
エキノコックス症			日本紅斑熱		
エムポックス			日本脳炎		
黄熱			ハンタウイルス肺症候群		
オウム病		1	Bウイルス病		
オムスク出血熱			鼻疽		
回帰熱			ブルセラ症		1
キャサナル森林病			ベネズエラウマ脳炎		
Q熱			ヘンドラウイルス感染症		
狂犬病			発しんチフス		
コクシジオイデス症			ボツリヌス症		
ジカウイルス感染症			マラリア		3
重症熱性血小板減少症候群			野兔病		
腎症候性出血熱			ライム病		
西部ウマ脳炎			リッサウイルス感染症		
ダニ媒介脳炎			リフトバレー熱		
炭疽			類鼻疽		
チクングニア熱		1	レジオネラ症	2	65
つつが虫病		1	レプトスピラ症		1
デング熱		2	ロッキー山紅斑熱		
五類感染症					
アメーバ赤痢	2	7	侵襲性肺炎球菌感染症	1	120
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)		7	水痘(入院例に限る)		21
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3	53	先天性風しん症候群		
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)		3	梅毒	10	368
急性脳炎		29	播種性クリプトコックス症		3
クリプトスポリジウム症		1	破傷風		5
クロイツフェルト・ヤコブ病	1	10	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	48	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		3
後天性免疫不全症候群		23	百日咳	152	3857
ジアルジア症			風しん		
侵襲性インフルエンザ菌感染症		16	麻しん		9
侵襲性髄膜炎菌感染症		3	薬剤耐性アシネトバクター感染症		

累計は診断日で集計

* 1 結核は月単位で集計、別に掲載します。

感染症発生状況(定点把握対象疾患)				報 告 患 者 数				年 齢 別				(2025年第35週				8月25日～8月31日)							
	合計	－6ヵ月	－12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～		
インフルエンザ #1	61	－	－	2	2	2	1	－	2	2	2	－	16	6	2	7	3	6	4	3	1		
新型コロナウイルス感染症	1,655	11	21	58	35	19	13	18	12	16	17	19	100	86	157	192	215	229	155	153	129		
	合計	0歳		1-4				5-9					10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～		
急性呼吸器感染症	11,699	721		4,518				2,387					848	306	457	560	538	455	321	301	287		
	合計	－6ヵ月	－12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～								
RSウイルス感染症	149	14	25	59	29	10	8	1	1	－	1	－	1	－	－								
咽頭結膜熱	31	1	1	6	1	4	5	2	7	2	1	－	1	－	－								
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	249	－	－	8	17	34	26	35	39	25	23	11	18	2	11								
感染性胃腸炎	525	6	43	103	51	41	45	39	29	21	31	18	67	8	23								
水痘	43	－	－	6	3	4	4	3	5	3	1	3	9	2	－								
手足口病	59	－	3	17	15	7	5	5	3	2	1	－	1	－	－								
伝染性紅斑	86	－	2	2	15	13	20	12	7	3	5	3	4	－	－								
突発性発しん	54	－	9	30	10	3	2	－	－	－	－	－	－	－	－								
ヘルパンギーナ	214	1	18	67	45	25	17	23	7	3	3	3	2	－	－								
流行性耳下腺炎	11	－	－	－	－	1	2	－	2	1	－	2	3	－	－								
	合計	－6ヵ月	－12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～			
急性出血性結膜炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－		
流行性角結膜炎	49	－	1	1	1	－	1	2	－	－	1	－	5	1	2	15	6	1	5	7			
	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～						
細菌性髄膜炎 #2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
無菌性髄膜炎	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
マイコプラズマ肺炎	18	－	2	7	6	－	－	－	－	1	－	1	－	1	－	－	－						
クラミジア肺炎 #3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
インフルエンザ(入院)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
新型コロナウイルス感染症(入院)	41	3	1	－	－	－	－	－	－	1	1	1	1	2	－	1	30						

※ 表中の数値は各定点からの報告数（-：0）

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

全国・関東情報

第33週 (8月11日～8月17日)

令和7年9月3日

<全国情報>

急性呼吸器感染症定点報告疾患(報告定点数:3,537):インフルエンザの定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は沖縄県(3.64)、高知県(1.16)、和歌山県(0.93)である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は52例と前週と比較して増加した。都道府県別では22都道府県から報告があり、年齢群別では1～9歳(11例)、10代(2例)、20代(1例)、30代(1例)、40代(1例)、50代(3例)、60代(5例)、70代(12例)、80歳以上(16例)であった。新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は第25週以降増加が続いている。都道府県別の上位3位は宮崎県(14.74)、鹿児島県(12.63)、埼玉県(11.52)である。基幹定点からの新型コロナウイルス感染症入院サーベイランスにおける報告数は1,904例と前週と比較して増加した。都道府県別では47都道府県から報告があり、年齢群別では0歳(71例)、1～9歳(65例)、10代(20例)、20代(31例)、30代(27例)、40代(39例)、50代(78例)、60代(143例)、70代(448例)、80歳以上(982例)であった。急性呼吸器感染症(報告定点数:3,535)定点当たり報告数は2週連続で減少した。都道府県別の上位3位は埼玉県(62.00)、茨城県(53.50)、栃木県(52.22)である。

小児科定点報告疾患(主なもの)(報告定点数:2,150):RSウイルス感染症の定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は山形県(2.26)、栃木県(1.86)、宮城県(1.26)である。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は第27週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は愛媛県(0.90)、大分県(0.75)、岐阜県(0.67)である。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は2週連続で減少した。都道府県別の上位3位は愛媛県(2.90)、埼玉県(2.76)、茨城県(1.92)である。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は2週連続で減少したが、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)の平均と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は島根県(5.36)、福井県(5.28)、岐阜県(5.07)である。水痘の定点当たり報告数は3週連続で減少したが、過去5年間の同時期の平均と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は北海道(2.17)、奈良県(1.42)、高知県(0.85)である。伝染性紅斑の定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期の平均と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は山形県(3.32)、大分県(3.19)、和歌山県(2.81)である。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は2週連続で減少した。都道府県別の上位3位は石川県(2.14)、愛媛県(1.65)、福井県(1.40)である。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は滋賀県(0.23)、香川県(0.15)、埼玉県(0.10)である。

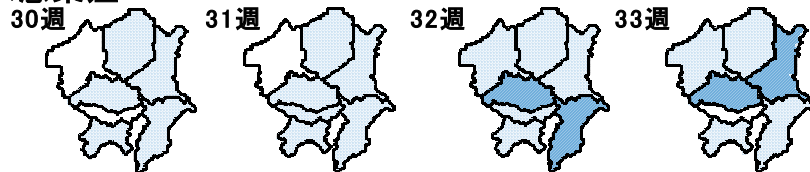
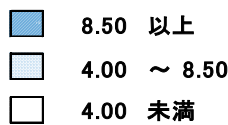
基幹定点報告疾患:マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期の平均と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は秋田県(7.88)、群馬県(3.56)、鳥取県(2.40)である。感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)の定点当たり報告数は横ばいであった。2都道府県から2例報告があり、年齢群別では5～9歳(2例)であった。

Infectious Diseases Weekly Report Japan 2025年 第33週(8月11日～8月17日):通巻第27巻 第33号 より

<関東情報>

新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は、埼玉県(11.52)、茨城県(10.87)からの報告が多い。

新型コロナウイルス感染症



		2025年 33週								
		全国	関東地域	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
インフルエンザ #1	報告数	980	228	12	17	6	38	31	83	41
	定点当たり	0.28	0.24	0.19	0.46	0.18	0.30	0.20	0.24	0.22
新型コロナウイルス感染症	報告数	22,288	5,805	674	302	187	1,475	906	1,263	998
	定点当たり	6.30	6.08	10.87	8.16	5.67	11.52	5.81	3.61	5.31
急性呼吸器感染症	報告数	120,683	41,082	3,317	1,932	1,668	7,936	5,339	12,394	8,496
	定点当たり	34.14	42.93	53.50	52.22	50.55	62.00	34.01	35.31	44.95
RSウイルス感染症	報告数	1,358	422	31	39	12	38	34	142	126
	定点当たり	0.63	0.72	0.86	1.86	0.63	0.46	0.35	0.64	1.12
咽頭結膜熱	報告数	534	145	17	4	5	33	21	49	16
	定点当たり	0.25	0.25	0.47	0.19	0.26	0.40	0.22	0.22	0.14
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	2,093	808	69	32	14	226	87	233	147
	定点当たり	0.97	1.37	1.92	1.52	0.74	2.76	0.91	1.05	1.30
感染性胃腸炎	報告数	5,296	1,680	76	42	62	234	194	749	323
	定点当たり	2.46	2.85	2.11	2.00	3.26	2.85	2.02	3.37	2.86
水痘	報告数	430	185	13	2	3	52	25	48	42
	定点当たり	0.20	0.31	0.36	0.10	0.16	0.63	0.26	0.22	0.37
手足口病	報告数	752	202	8	6	7	36	27	87	31
	定点当たり	0.35	0.34	0.22	0.29	0.37	0.44	0.28	0.39	0.27
伝染性紅斑	報告数	2,495	380	46	26	30	94	66	39	79
	定点当たり	1.16	0.65	1.28	1.24	1.58	1.15	0.69	0.18	0.70
突発性発しん	報告数	496	148	6	5	4	31	13	59	30
	定点当たり	0.23	0.25	0.17	0.24	0.21	0.38	0.14	0.27	0.27
ヘルパンギーナ	報告数	1,645	500	48	15	10	101	54	182	90
	定点当たり	0.77	0.85	1.33	0.71	0.53	1.23	0.56	0.82	0.80
流行性耳下腺炎	報告数	83	29	1	—	1	8	2	8	9
	定点当たり	0.04	0.05	0.03	—	0.05	0.10	0.02	0.04	0.08
急性出血性結膜炎	報告数	11	2	—	—	—	—	1	—	1
	定点当たり	0.02	0.01	—	—	—	—	0.03	—	0.02
流行性角結膜炎	報告数	420	194	42	1	15	36	37	9	54
	定点当たり	0.67	1.15	3.00	0.10	1.25	1.20	1.19	0.31	1.29
細菌性髄膜炎 #2	報告数	5	—	—	—	—	—	—	—	—
	定点当たり	0.01	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	報告数	30	7	—	—	—	2	—	—	5
	定点当たり	0.06	0.08	—	—	—	0.17	—	—	0.42
マイコプラズマ肺炎	報告数	558	117	25	14	32	14	1	20	11
	定点当たり	1.16	1.34	1.92	2.00	3.56	1.17	0.11	0.80	0.92
クラミジア肺炎 #3	報告数	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	定点当たり	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	報告数	2	1	—	—	—	—	—	1	—
	定点当たり	0.00	0.01	—	—	—	—	—	0.04	—

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

(-:0.00)

感染症発生動向調査 2025年

▶ [感染症の流行状況 2025年 第1週](#)

▶ [感染症の流行状況 2025年 第2週](#)

▶ [感染症の流行状況 2025年 第3週](#)

▶ [感染症の流行状況 2025年 第4週](#)

▶ [感染症の流行状況 2025年 第5週](#)

▶ [感染症の流行状況 2025年 第6週](#)

▶ [感染症の流行状況 2025年 第7週](#)

▶ [感染症の流行状況 2025年 第8週](#)

▶ [感染症の流行状況 2025年 第9週](#)

▶ [感染症の流行状況 2025年 第10週](#)

▶ [感染症の流行状況 2025年 第11週](#)

▶ [感染症の流行状況 2025年 第12週](#)

▶ [感染症の流行状況 2025年 第13週](#)

▶ [感染症の流行状況 2025年 第14週](#)

▶ [感染症の流行状況 2025年 第15週](#)

▶ [感染症の流行状況 2025年 第16週](#)

▶ [感染症の流行状況 2025年 第17週](#)

▶ [感染症の流行状況 2025年 第18週](#)

▶ [感染症の流行状況 2025年 第19週](#)

▶ [感染症の流行状況 2025年 第20週](#)

▶ [感染症の流行状況 2025年 第21週](#)

▶ [感染症の流行状況 2025年 第22週](#)

▶ [感染症の流行状況 2025年 第23週](#)

▶ [感染症の流行状況 2025年 第24週](#)

▶ [感染症の流行状況 2025年 第25週](#)

▶ [感染症の流行状況 2025年 第26週](#)

▶ [感染症の流行状況 2025年 第27週](#)

▶ [感染症の流行状況 2025年 第28週](#)

感染症の流行状況 2025年 第35週

2025年第35週（8月25日～8月31日）は、2025年4月以降、増加傾向が続いていた百日咳は、減少傾向となっているものの、まだ多い状況となっています。また、新型コロナウイルス感染症も、2週連続でわずかに減少しました。

[咳エチケット](#)、外出後の手洗いとともに、十分な休養をとるよう心掛けてください。また、体調がすぐれない時は、医療機関に電話で相談の上、早めに受診してください。

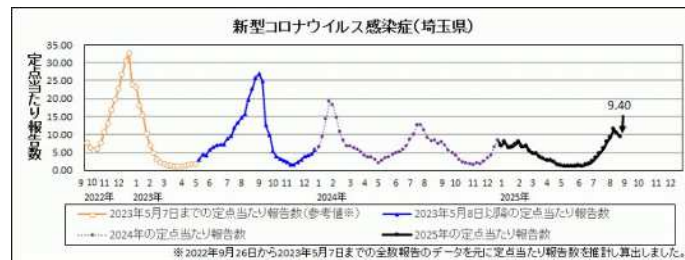
全数把握対象疾患（百日咳）

第35週に診断された患者数は143人で、この内訳を年齢階級別にみると、10～14歳が53人（全体の約37%）と最も多く、次いで5～9歳の29人（約20%）の順でした。



定点把握対象疾患（新型コロナウイルス感染症）

定点当たり報告数は9.40で、2週連続でわずかに減少しました。



感染症流行状況

疾患	推移	流行状況	疾患	推移	流行状況
インフルエンザ	→	★	手足口病	→	★
新型コロナウイルス感染症	↓	—	伝染性紅斑（りんご病）	↓	★★
急性呼吸器感染症	→	—	突発性発しん	→	★
RSウイルス感染症	↑	★★	ヘルパンギーナ	↑	★★
咽頭結膜熱（プール熱）	↓	★	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	→	★
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	★	急性出血性結膜炎	→	★
感染性胃腸炎	→	★	流行性角結膜炎	→	★★★★
水痘（みずぼうそう）	↓	★			

*1.推移、流行状況は、県内全域の傾向です。*2.推移は2週間前からの傾向を示します。（→:増減無し、↑:増加、↓:減少）*3.流行状況は今週の流行を示します。（小さい→★、★★、★★★→大きい）*4.2025年第14週から定点医療機関の指定数が増えとなりました。

疾患名をクリックすると、各疾患の流行状況のグラフがご覧いただけます。

この情報は毎週水曜日に更新する予定です。ただし、祝日等により変更の場合もあります。

また、全国の感染症発生動向状況については、国立健康危機管理研究機構のホームページ「[感染症情報提供サイト](#)」でご覧になれます。